

I 学士力を養成するカリキュラム

学士力とは

大学生が大学を卒業するまでに習得すべき力として国から示された能力であり、下記のとおり定義されています。大学にはその能力を育成することが求められており、崇城大学でも十分、学士力が身に付くようなカリキュラムを編成しています。

崇城大学における学士力

中でも「汎用的技能」に示されているコミュニケーション・スキルや情報リテラシーに着目し、総合系大学として必要不可欠な情報処理能力と日本語や外国語を用いたコミュニケーション能力を身に付けることが出来るよう様々な取り組みを行っています。

学士力を養成する為に

「学士課程教育共通の学習効果に対応したカリキュラム」、「情報教育目標に対応したカリキュラム」を学科毎に編成しています。この冊子に掲載している各講義のシラバスには【科目区分】があり、その講義が下記カリキュラムのどの部分に組み込まれているかを示してありますので、皆さんは卒業までに必要な能力を身に付けることを強く意識しながら、シラバスを十分活用して履修計画を立てて下さい。

履修計画を立てるにあたって

崇城大学で開講している科目の中には、【科目区分】に記載のない科目であっても、目標達成に十分有効な講義が多数開講されています。皆さんは下記カリキュラムに該当する講義のみを履修するのではなく、開講科目全体の中から履修計画を立てるよう心がけて下さい。

○学士課程教育共通の学習効果に対応したカリキュラム

学士力の定義を参考に各講義のシラバスを参照して下さい。

(学士力の定義)

1. 知識・理解

専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。

(1) 多文化・異文化に関する知識の理解

(2) 人類の文化、社会と自然に関する知識の理解

2. 汎用的技能

(1) コミュニケーション・スキル

日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。

(2) 数量的スキル

自然や社会事象について、シンボルを活用して分析し、理解し、表現することができる。

(3) 情報リテラシー

情報通信技術（ICT）を用いて、多様な情報を収集・分析して適切に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。

(4) 論理的思考力

情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。

(5) 問題解決力

3. 態度・志向性

(1) 自己管理能力

自らを律して行動できる。

(2) チームワーク、リーダーシップ

他者と協調・協働して行動できる。また、他者に方向性を示し、目標の実現のために動員できる。

(3) 倫理観

自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。

(4) 市民としての社会的責任

社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、社会の発展のために積極的に関与できる。

4. 総合的な学習経験と創造的思考力

これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力

○ 情報教育目標に対応したカリキュラム

情報教育目標の定義を参考に各講義のシラバスを参照して下さい。

本学の情報教育目標は情報処理学会における情報リテラシーの定義に準じる。

コンピュータと情報社会に関する正しい知識を持ち、情報の収集・分析・発信を適切な方法で実践できる人材を育成する

スキルは3本の柱から成り、具体的な目標は以下のとおりである。

項	目	例
情報活用の実践力	情報収集・検索	インターネット検索、デジタル保存、OPAC
	情報の整理・分析	整理方法、分析手法、数値解析
	情報の発信・伝達	情報の構造化、伝達手段、表現
情報の科学的理解	コンピュータの理解	OS、プログラム、アルゴリズム、データベース
	ネットワークの理解	インターネット、LAN、メール
	マルチメディアの理解	文字、音声、画像、媒体
情報社会への参画	情報倫理	マナー、知的財産、個人情報

- ・ 3つの柱は、科学的理解を元に実践し更に理解を深めるといように相互に関連する。
- ・ このスキル目標を達成するには、自主的な実践が最も重要である。